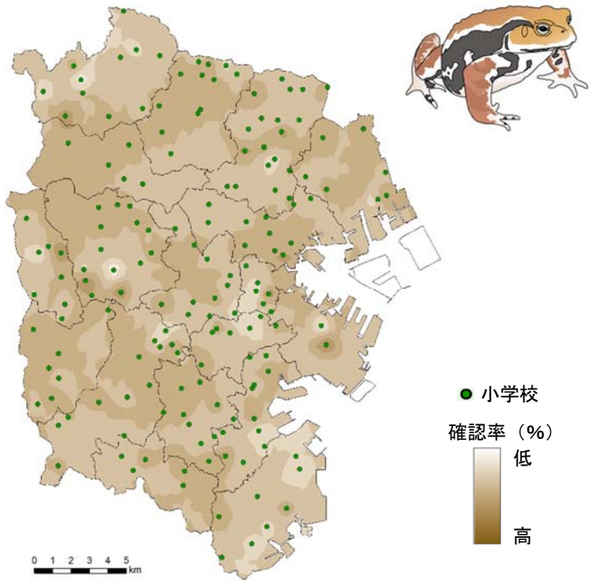


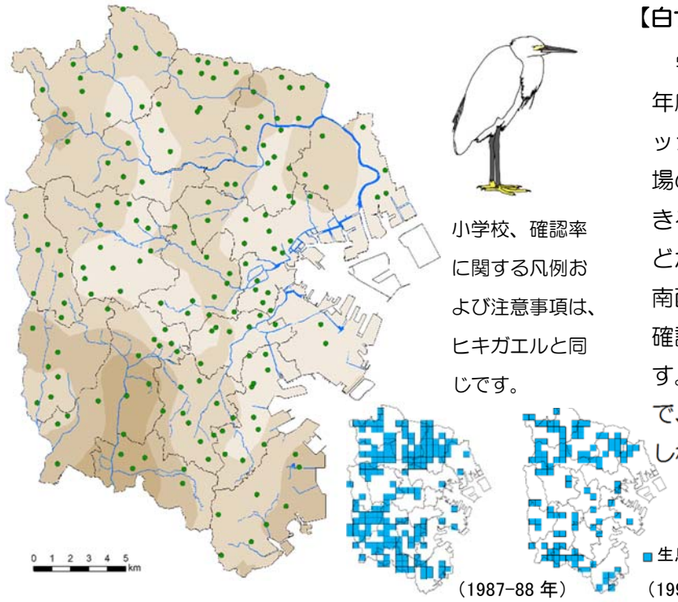
注）色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。

【ヒキガエル】

学校ごとの確認率は 5%から 70%でした。学校ごとの確認率には大きな開きがあるものの、市内各地で確認されているという結果となりました。

市内で見られるカエル類のなかでは、比較的乾燥に強く、市内各地に点々と分布しているものと思われ、妥当な結果と言えます。隣接する地域（学校）であっても確認率の高低に差があり、産卵可能な池の有無など、周辺環境の微妙な違いが反映されているのかもしれません。

ちなみに、2014 年に実施したアマガエルの分布は、水田環境に依存すると考えられ、市内西側での確認率が高い傾向がみられました。



【白サギのなかま】

学校ごとの確認率は 0%から 84%でした。過年度の一連の調査（図右下）では、観察できたメッシュが減少しており、原因として水田などの餌場の減少と、営巣できる山の消滅、児童が観察できるような場に白サギが訪れなくなったことなどが挙げられています。今回の調査結果は、市の南西部（柏尾川流域）と北部（鶴見川流域）での確認率が高く、過年度と似た傾向と言えそうです。帷子川や大岡川周辺での確認は少ないようで、河川の形状などにより観察がしづらいのかもしれません。

＜調査に参加いただいた小学校＞

【鶴見区】入船・平安・矢向・寺尾・汐入・馬場・駒岡【神奈川区】青木・神奈川・神橋・池上・幸ケ谷・三ツ沢・斎藤分・大口台・神大寺・西寺尾第二・羽沢【西区】戸部・東・平沼・宮谷・一本松・西前【中区】北方・大鳥【南区】太田・南吉田・南太田・井土ケ谷・永田・永田台・別所【港南区】永野・日下・南台・下永谷・日限山・港南台第一・下野庭・港南台第三・野庭すずかけ【保土ケ谷区】今井・帷子・峯・富士見台・桜台・常盤台・上菅田・初音が丘・上星川・瀬戸ケ谷・権太坂【旭区】二俣川・白根・都岡・希望ケ丘・鶴ケ峯・本宿・万騎が原・東希望が丘・中沢・川井・不動丸・上白根・善部・四季の森【旭区】二俣川・白根・都岡・希望ケ丘・鶴ケ峯・本宿・万騎が原・東希望が丘・中沢・川井・不動丸・上白根・善部・四季の森【磯子区】磯子・杉田・滝頭・浜・屏風浦・梅林・岡村・洋光台第一・洋光台第三・洋光台第四・山王台・さわの里【金沢区】六浦・八景・西柴・朝比奈・釜利谷西・並木第一・能見台南・並木中央【港北区】日吉台・新田・大綱・城郷・港北・綱島・菊名・篠原・下田・大曽根・新吉田・綱島東・矢上・駒林・太尾・新羽・新吉田第二・大豆戸・小机【緑区】山下・三保・上山・いぶき野・森の台【青葉区】田奈・山内・青葉台・藤が丘・あざみ野第一・鴨志田第一・東市ケ尾・鴨志田緑・奈良の丘・黒須田・美しが丘西【都筑区】山田・すみれが丘・茅ケ崎・中川西・都田西・荏田南・川和東・北山田・南山田・東山田・茅ケ崎東・牛久保【戸塚区】東戸塚・川上北・平戸・深谷・深谷台・東汲沢・平戸台・鳥が丘・品濃・秋葉・東俣野・舞岡・東品濃【栄区】豊田・西本郷・飯島・本郷台・桜井・上郷【泉区】中和田・岡津・中和田南・和泉・下和泉・伊勢山・緑園東・飯田北いちょう【瀬谷区】瀬谷・原・上瀬谷・三ツ境・二つ橋・相沢・阿久和・瀬谷さくら　（全 169 校）

2015 年 12 月作成　横浜市環境創造局　環境科学研究所　電話: 045-453-2550

こども「いきいき」生き物調査 2015

横浜市全域一斉調査

調査結果について 概要版

～小学生12,000人超が市内全域生き物調査に参加しました！～

横浜市環境科学研究所では、平成27 年の夏休みに、市内の市立小学校342 校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました（本調査は継続３年目です）。

169 校、12,257 名の児童から回答があり、庭先や公園の池などで繁殖するヒキガエルは市内都市部でも比較的多く確認されていること、集団繁殖地が減少し、過年度調査でも減少傾向にあることが指摘されている白サギのなかまは市内で確認率に差が生じていることなど、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

ツバメの巣

今年使われた巣を見つけた時だけ教えてね。

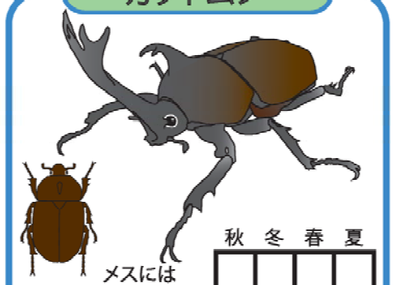
秋 冬 春 夏

ふきのとう

冬から春に見られるはず。 フキという植物の花だよ。

秋 冬 春 夏

カブトムシ



メスには角はありません。

秋 冬 春 夏

白サギのなかま

体が白いサギ。首をのばして魚などをつかまえて食べるよ。

足先が黄色い白サギは「コサギ」という種類だよ。

秋 冬 春 夏

カモメのなかま

横浜にはユリカモメセグロカモメウミネコなどがいるよ。

秋 冬 春 夏

ハクセキレイ

まちのなかでも道の上をチョコチョコ歩いているよ。

秋 冬 春 夏

ヒキガエル

夜にのそのそ歩き回ることが多いよ。おたまじゃくしの色は真っ黒。

秋 冬 春 夏

サワガニ

横浜には、せなかが茶色いのや青いのがいるよ。

わき水がしみだすところや小川にいるよ。海には いないはず。

秋 冬 春 夏

カマキリのなかま

草むらだけでなく、まちのなかの木の上にいる種類もあるよ。

秋 冬 春 夏

図　調査対象とした生き物

こども「いきいき」生き物調査　2015
教えて！あなたが見つけた生き物たち

1 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めていただくとともに、生物多様性保全に資する基礎データ（市内広域における生物情報）を取得することを目的に実施しました。

2 調査方法

市内にある市立小学校342 校の5 年生 31,615 名（平成26年4月1日現在）及び参加希望のあった他の学年に調査票を配布し、過去1年間（2014 年9 月1 日～2015 年8 月31 日）に、「家や学校の近く」（＝学区内）で見つけたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。

3 調査対象とした生き物

調査対象としたのは、次の9 種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を指標すると思われるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

・ツバメの巣　・ふきのとう　・カブトムシ　・白サギのなかま
・カモメのなかま　・ハクセキレイ　・ヒキガエル　・サワガニ　・カマキリのなかま

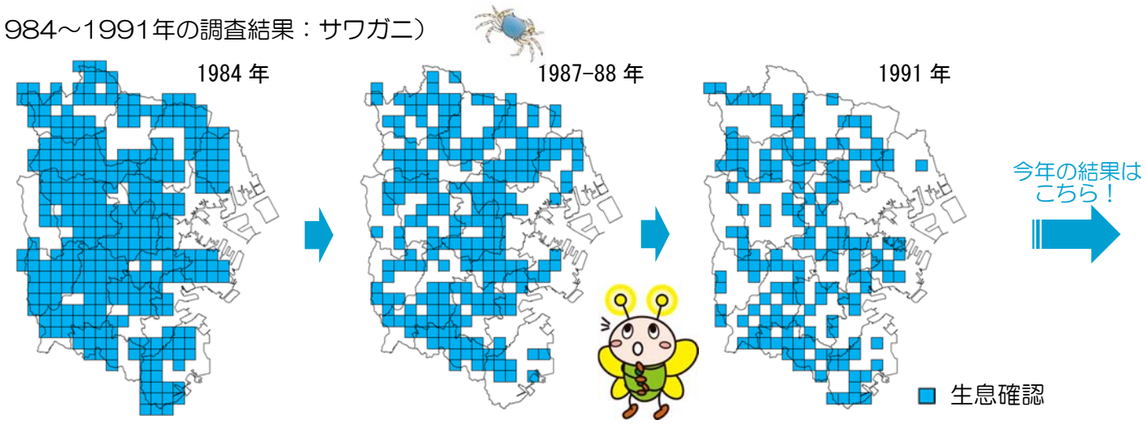
4 調査結果

学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとにGISソフトを用いて市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました（3ページ及び４ページ）※1。

いくつかの生き物については、1980～90 年代に３回、小中学生らを対象としたアンケートによる分布調査が行われています。対象とする生き物が確認できたか否かを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました（下図及び４ページ）。

※1 作図にあたっては、1校あたりの回答数が10名以上の167校のデータを使用しました。

（1984～1991年の調査結果：サワガニ）

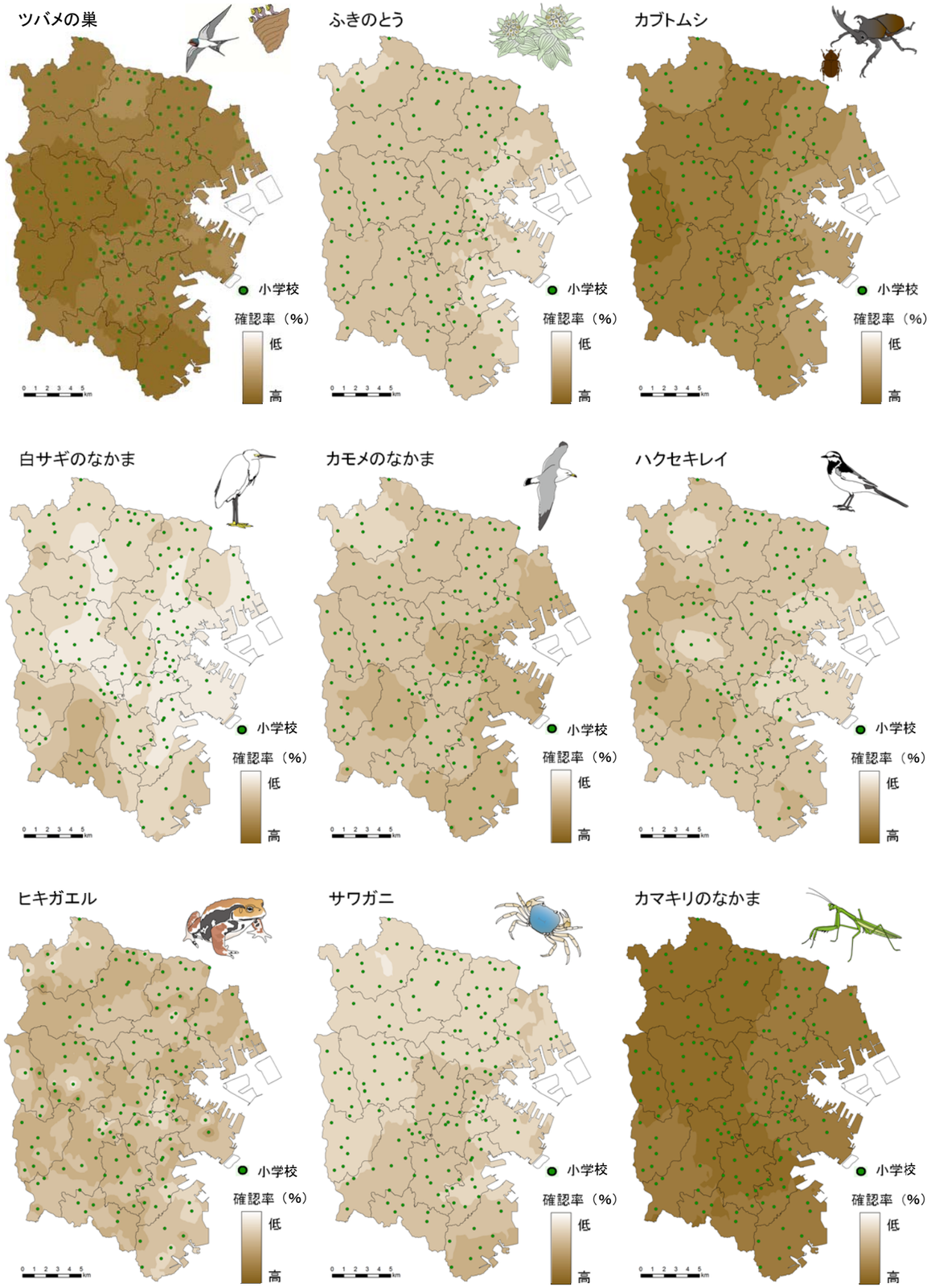


5　結果の活用と今後の計画について

結果の詳細は、横浜市環境科学研究所 Web ページをご覧下さい。

http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年度以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。



注）色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。